「南北朝・菊池一族歴史街道」　～各自治体紹介連載シリーズ～

R5 年度　第３弾（R5.9.1 掲載）

【八女市】

八女市では、南北朝に関する伝承や行事、文化財が現在に至るまで地元住民によって大切に守られています。今回は五條家御旗祭と大杣公園祭についてご紹介します。

１３３８年に南朝の軍事的な支柱と言うべき北畠顕家、新田義貞が戦死したため、後醍醐天皇は態勢の立て直しを余儀なくされ、皇子を各地に派遣しました。九州に派遣されたのは懐良親王。後醍醐天皇から征西将軍宮に任じられ、その印として金烏の御旗と恩賞と懲罰についての裁量権を与えられた親王は、五條頼元を筆頭とした総勢わずか１２人で九州に向かいます。薩摩半島南部を経由し、１３４８年に肥後菊池に入った一行は、菊池武光を味方にするなど南朝勢力の結集に成功しました。１３５９年の大保原合戦（筑後川の戦い）に勝利した後は１３６１年に征西将軍府を太宰府に開き、九州を制覇するなど大きな成功を収めます。１３７２年、今川了俊によって太宰府が陥落した後は、懐良親王のおいにあたる良成親王が後を継ぎ、１３９２年の南北朝合一後も抵抗を続けますが、親王は志半ばで筑後矢部で没しました。

八女市黒木町には懐良親王、良成親王に仕えた五條家の子孫が今も残り、八女市矢部村大杣公園内にある良成親王墓を守部として守り続けています。毎年９月２３日には市指定文化財でもある五條氏邸において、地元住民で組織された五條家宝物顕彰会主催により、五條家ゆかりの宝物が一般公開される五條家御旗祭が開催されます。また、１０月８日の良成親王の命日には、八女市矢部村で亡くなられた親王の御霊を慰めるため、公卿唄や浦安の舞を奉納する大杣公園祭が開かれています。

９月２３日五條家御旗祭

１０月８日大杣公園祭